

【事業報告書】

提出年月日：2014/5/9

| | | | |
|------|---------|------|-------|
| 実施年度 | 2013 年度 | 担当部署 | 北海道支部 |
|------|---------|------|-------|

I. 大会、セミナー等の開催（1号事業）

(1) 支部大会の開催

| | |
|----|---|
| 名称 | 2013 年度北海道支部大会 |
| 日時 | 平成 25 年 7 月 6 日 |
| 場所 | 札幌大谷大学 |
| 目的 | 大学英語教育、および関連分野の理論と実践に関する調査・研究の発表を行うことを目的に開催した。 |
| 対象 | 支部会員、その他の英語教育関係者、および英語教育に関心のある者 |
| 規模 | 70 人程度 |
| 広報 | 1. 支部会員に対しては支部ホームページと『支部ニューズレター』を通じて宣伝した。 2. 支部以外の会員とその他の英語教育関係者に対しては、支部ホームページ、英語教育関係の他団体・組織のメーリングリスト等を通じて行った。 |
| 内容 | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 講演 野口ジュディー（JACET 関西支部長・武庫川女子大学教授） 「English that Works ! - Motivated, Self-directed, Informed Plurilinguistic ELF Learners」 ➤ 研究発表① 小林 敏彦（小樽商科大学）、尾田智彦（札幌大学）佐々木勝志（北海道武蔵女子短期大学） 「談話の視点からの英字新聞の活用」 ➤ 研究発表② 目時光紀（天使大学） 「入試形態と大学生の英語力の関係」 ➤ 研究発表③ 三ツ木真実（北海道大学大学院） 「日本人英語学習者における多義語に関する語彙知識の測定」 ➤ 研究発表④ Tatsuya Mima (Otaru University of Commerce, Graduate School of Commerce) “The Benefits of Humor on Motivation and Stress” ➤ 研究発表⑤ Haidee Thomson (Fuji Women’s University) “Methods for noticing lexical bundles in text” ➤ シンポジウム 「大学の出口教育」 平岡祥孝（札幌大谷大学社会学部学部長） 小松和行（札幌商工会議所国際部貿易課） 野口ジュディー（JACET 関西支部長・武庫川女子大学） |
| 成果 | 1. ESP の最新の動向に関する知見を深めた。 |

| |
|--|
| <p>2. 語彙、ユーモア、英字新聞活用、入試と多岐に渡る分野の最新の研究成果について理解を深めた。</p> <p>3. 大学の出口教育に求められる内容について、社会学部の状況、商工会議所の貿易動向からレポートしてもらい、多角的な観点から議論を深めた。</p> |
|--|

(2) 講演会の開催 今年度実施せず

(3) 支部研究会の開催

| | |
|----|---|
| 名称 | 2013 年度北海道支部研究会 |
| 日時 | 第 1 回：平成 25 年 5 月 25 日 第 2 回：平成 25 年 11 月 16 日 第 3 回：平成 26 年 3 月 8 日 |
| 場所 | 第 1 回：天使大学 第 2 回：札幌大学 第 3 回：北海道教育大学旭川校 |
| 目的 | 大学英語教育、および関連分野の理論と実践に関する調査・研究の発表を行うことを目的に開催した。 |
| 対象 | 支部会員，その他の英語教育関係者，および英語教育に関心のある者 |
| 規模 | 各回 50 人程度 |
| 広報 | 1. 支部会員に対しては支部ホームページを通じて宣伝した。 2. 支部以外の会員とその他の英語教育関係者に対しては、支部ホームページ，英語教育関係の他団体・組織のメーリングリスト等を通じて行った。 |
| 内容 | <p>第 1 回</p> <p>1) 目時光紀・川口雄一（天使大学）「Moodle を利用したストリーミング教材配信基盤の構築」</p> <p>2) 英語プレゼンテーション・キックスタート：海外研修プログラムのレポート（大学生 3 名）</p> <p>第 2 回</p> <p>1) 山口健太（北海道大学大学院 国際広報メディア・観光学院）「概念メタファーによる日本人英語学習者の句動詞学習」</p> <p>2) 上原未来（北海道大学大学院 国際広報メディア・観光学院／札幌市立石山中学校）「中学生のライティング授業におけるピアレスポンスの効果」</p> <p>3) Sato Ami (Lancaster University) 「Online communication between peers in a language exchange SNS Lang-8」</p> <p>第 3 回</p> <p>1) Masanobu Nakatsugawa (Otaru University of Commerce) 「The recent shift toward 'globalization' on language policy in Japan」</p> <p>2) Nanaho Oki・Hiroya Tanaka (Hokkai-Gakuen University) 「Raising Japanese</p> |

| | |
|----|--|
| | <p>EFL learners' pragmatic awareness using online discourse completion task」</p> <p>3) 小林敏彦 (小樽商科大学) 「小樽商科大学教職科目英語科教育法Ⅲ (教材開発論) の実践報告と教材提示」</p> <p>4) 田中洋也 (北海学園大学) 「持続可能な英語語彙学習を促進する電子ポートフォリオの開発」</p> <p>5) Tim Blankey (Kokugakuin Junior College)・Jeremie Bouchard (Hokkai-Gakuen University) 「Exploring the communicative potential of ER」</p> <p>6) シンポジウム: 石塚博規 (北海道教育大学旭川校)・松井徹明 (旭川北高等学校)・越野 崇 (北海道教育大学附属旭川中学校)・小山俊英 (旭川市立北光小学校))</p> <p>「小中高におけるコミュニケーション指導の実践から見える課題ー小学校英語の教科化を目前にしてー」</p> |
| 成果 | <p>1. 支部ホームページに報告を掲載した。</p> <p>2. 本研究会の研究成果や知見が支部会員の研究活動に大きな道標となった。</p> |

Ⅱ. 『紀要』『支部ニューズレター』等の出版物の刊行 (2号事業)

(1) 『支部紀要』11号の刊行

| | |
|----|---|
| 名称 | 北海道支部紀要 Research Bulletin of English Teaching No.11 |
| 日時 | 平成 26 年 2 月 22 日 |
| 目的 | 支部会員の多様な観点に基づく学術研究を奨励し、論文発表 (研究論文および教育論文) の機会を提供することを目的とした。 |
| 対象 | 支部会員・他支部・本部・支部の英語教育関係諸団体 |
| 規模 | B5 110 ページ 200 冊 |
| 内容 | <p>1. 査読結果に基づき、研究論文 2 編を掲載した。</p> <p>2. 紀要委員会にて編集および校正を行った。</p> |
| 成果 | <p>1. 支部会員、他支部の事務局、本部、支部の英語教育関係諸団体に 1 部ずつ送付した (本部には 5 部)。</p> <p>2. 執筆者に研究成果を公表する場を提供するだけでなく、会員が研究情報を得ることでさらに活発に研究を促進することに寄与した。</p> |

(2) 支部ニューズレターの刊行 今年度実施せず

Ⅲ. その他 (5号事業)

(1) 支部総会の開催

| | |
|----|-----------------|
| 名称 | 2013 年度北海道支部総会 |
| 日時 | 平成 25 年 7 月 6 日 |

| | |
|----|--|
| 場所 | 札幌大谷大学 |
| 目的 | 支部活動について会員の理解を深め、支部運営を円滑に進める目的で開催された。 |
| 対象 | 支部会員 |
| 内容 | 2013 年度の事業報告を行い、2014 年度の事業計画と人事案を提示した。また、その概要を支部ホームページに掲載した。 |
| 成果 | 会員に活動動向の周知を図り、審議することを通して、支部運営を円滑に進め、かつ会員の帰属意識を向上させることに寄与した。 |

(2) 支部役員会の開催

| | |
|----|--|
| 名称 | 2013 年度北海道支部役員会 |
| 日時 | 第 1 回：平成 25 年 5 月 25 日 第 2 回：平成 25 年 11 月 16 日 第 3 回：平成 26 年 1 月 24 日 |
| 場所 | 第 1 回：天使大学 第 2 回：札幌大学 第 3 回：北海学園大学 |
| 目的 | 支部運営について、支部役員レベルで審議・検討した。 |
| 対象 | 支部役員 |
| 内容 | 2013 年度事業計画（支部大会、研究会の運営等）、2013 年度人事案、ならびに 2014 年度事業計画と人事案、その他としてホームページ更新等について検討した。 |
| 成果 | 円滑な支部運営に寄与した。 |